

高齢者・障がい者福祉・子育て施策に関する市民懇談会 会議録（子育て施策関係の抜粋）

○参加者意見・質疑

→市出席者発言要旨

《高山地域》

日時：令和5年8月2日（水）19：00～20：30

場所：高山市役所 地下大会議室

参加者：22名

○「ひきこもり、8050問題」とはどういうことか教えてほしい。

→ひきこもりは、仕事や学校などに行けず、家の中に閉じこもってしまい、家族以外の人と接する機会がなくなるような状態のことである。ひきこもりが長期化すると、80歳代の親が50歳代の子どもの面倒を見る状態になる。親が亡くなって以降、経済能力のない子どもを支える人が居なくなるのが8050問題である。

○ひきこもり、8050問題について、相談するところが分からない、相談するという発想自体がない人もいる。そのような潜在的なひきこもりの把握を行う予定はあるのか。

→ひきこもり、8050問題について、これまでもなかなか把握しにくい現状があり、対象者の把握自体が重要な課題と考えている。関係者の方々からご意見を伺い、効果的な施策を検討していきたい。

○長女が中学校から不登校になり、高校は進学したが通えず、ひきこもりとなった。市役所の窓口で相談したが、17歳までは制度がなく支援が難しいと言われ、18歳で成人になったところで様々な支援を受け、現在は就労支援のB型事業所に通っている。小中学校（教育委員会）から高校への引き継ぎされることで、不登校からひきこもりに移るところを把握し、対応できると思う。

→コロナの影響もあり、残念ながら不登校の子どもが増え、大きな課題になっている。社会では人材を必要とし、子どもや家庭も社会との繋がりを持ちたいなかで、うまくいっていない部分が広がってきている。社会が大きく変わり、行政の縦割りを無くそうという状況になってきており、母子保健と児童福祉を一体としていく流れがあり、市でも検討をすすめている。しっかり引き継ぎができるような取り組みをすすめていきたい。

《丹生川地域》

日時：令和5年7月19日（水）13：30～15：00

場所：丹生川支所

参加者：17名

○学童保育で子どもたちに楽しい経験をさせたい。1人あたり1.65㎡以上の面積があればよいと聞いたが、子どもは動くので足りない。グラウンドや体育館で遊べ、図書館も使えるとよい。支援員の先生からは、身分が保障されておらず、給与も低いと聞くため、市はNPOに任せるのではなく、もっと考えてほしい。

→放課後児童クラブについては、NPOに任せきりにはしておらず、学校や支所と連携し対応している。校内の空き教室が少ないため、支所周辺で場所を確保している。引き続き、互いに連携を図りすすめていく。

○高山市には自然が沢山あるため、子どもたちはもっと外へ出て、いろいろ経験するべきと考える。

城山に木を増やし、小川があればそこで遊ぶことができる。本巢に木をふんだんに使った遊べる施設があるので、高山市にもそのような場所があれば冬も遊ぶことができる。

→魅力的な公園や屋内の遊び場について検討し、計画に盛り込んでいきたい。

○脳性麻痺の子どもを育てている。高山市では前の計画で、大きいベッドでオムツ交換ができるトイレの多目的シートの整備を位置づけ、多く設置されたため、外出に大変助かっている。災害時に避難先となる学校体育館のトイレには多目的シートがなく残念に思うので、大規模に改修等する際には多目的シートを設置してほしい。

→学校施設について、この場での発言は難しいが、引き続き整備をすすめていく。

○放課後等デイサービスについて、制度変更により利用できていた子が利用できなくなった。放課後等デイサービスのおかげで安定して過ごせていたのに、不安定になった子どももいる。お母さんたちは働かなければならないのに支援を受けられず大変な思いをしているので、子どもを育てる人たちへの支援を手厚くしてほしい。

→昨年度、適正利用に向けた見直しをさせていただいたが、様々な意見があることは承知しており、引き続き検討している。

○結婚していない若い男性が非常に多い。なぜ結婚しないのか分からないが、結婚を促すことが大事だと思う。昔は親戚の人が働きかけて出会いを作ったりしたが、今はそのようなことがなくなっているため、何か取り組んでほしい。

→担当の協働推進課へ情報提供する。

○富山の道の駅「林林」の遊び場がとても良かった。人工の山をつくったり、穴を掘ったりして、面白い遊び場を作してほしい。都会へ行った子どもも帰ってきてくれるのではないかな。

○丹生川地域において、社会教育的な活動ができる場所、調理実習や学習、集まって体操するなどに適した場所が多くない。また、保育士など空いた人材を活用できるような組織があると良い。

○人材のマッチングは、ファミリーサポート事業でできていると思う。これを拡大して、子育て支援だけでなく高齢者支援も対象にしたらいと思う。

○保育園の役割は大きい。保育士を大事にした施策をぜひお願いしたい。

○学童保育の先生を増やし、子どもたちがゆったりとした気持ちで過ごせるようにしてほしい。

《清見地域》

日時：令和5年7月12日（水）19：30～20：45

場所：きよみ館

参加者：17名

○子どもの発達障がい最近増えている。発達障がいの兆しがあった子どもたちが、大人になって精神疾患が出てくることがある。高山市が精神障がいや発達障がいに対して支援することを掲げたらどうか。オルタナティブスクールというのは普通の教育ではなくて、アメリカやヨーロッパの哲学思想に基づいた教育法で、子どもたちが主体となって考え、先生は教えるのではなく見守る。このような教育法を探している人は他県から移住してくる。高山市がオルタナティブスクールを支援するまちをめざしたらどうか。

○引きこもりの人や本当に困っている人は、市役所の窓口へ行って助けてくれとは言えない。このような人は、受診のために精神病院には行くことができる。精神病院の中に市の相談員がいて、いつでも相談できる環境があったらよいと思う。

→相談員の数は足りていない現状がある。障がいのある方などが相談に行きやすいよう努める。引きこもりの人は相談に行きづらいと思うので、家族などから情報をいただいて、アプローチしていきたい。

○私の子どもは障がいを持っている。障がい者が増えているとあったが、市内の施設の収容人数は足りているのか。災害時に障がい者が2週間に1回くらいしか施設に行ってお風呂に入れなかったと聞いた。私たちの会でも障がい者が入るお風呂を作っていきたいと話している。具体的なことが少しずつ進んでいったら嬉しい。

→現状では施設は足りている状況ではあるが、今後、人手不足のこともあり、現在の施設が必ず継続するとも言えない。地域外から参入しようとする事業者もあるので、そのような状況も踏まえて、施設やサービスが足りるように計画を立てていきたい。

○主任児童委員の仕事がまだよくわかっていないが、様々なところへつなぐ役目があると研修で学んだ。どこにつなげたら良いかといった情報は大事だと思うので、資料の障がい児通所支援にあるような情報は、どんどん教えていただければありがたい。

→市役所福祉課のところに総合相談支援センターがある。そこには障がいのある方の相談を受け付ける基幹相談支援センターがあるのでご利用いただきたい。周知が足りていないため、周知に努める。

《 荘川地域 》

日時：令和5年7月7日（金） 19：00～20：10

場所：荘川総合センター

参加者：21名

○荘川では今のところまだ無いと思うが、吸引が必要な子どもが保育園にいるとき、必要なときに看護師などを派遣できる体制を整えていただければと思う。

→いただいたご意見を参考に市の施策などを検討していきたい。

○昨年度、荘川保育園で受け入れを断られたことがあった。このお母さんは、やむを得ず内定していた仕事を断っている。荘川ではこのようなことは初めてだったので、不安の声が出ている。保育士の数が少なくて受け入れできないとなると、親が仕事に行けなくなるので考えてほしい。

→保育士確保の問題だと思うが、確認させていただく。

○「こども誰でも通園制度」をニュースで聞いたが、高山市ではどうか。荘川には保育園だけで幼稚園がないので、家庭で保育する人がいるからといって小学校入学まで集団生活をしないのは現実的でない。年少さんになったら誰でも保育園に入れるのがいいと思う。

→「こども誰でも通園制度」は、まだ正式に国から通知が来ていない。国から制度の仕組みなどの通知があったときには、ご意見を参考に検討させていただく。

○学校と保育園を建て替えるときに、保育園と福祉センターを一緒にできないかと提案したが、福祉センターはまだ年数が経っていないからと却下された。高齢化に伴い、福祉センターは今後需要が増えるため、長寿命化改修を考えていくと説明があった。洋式トイレの数が少なく、バリアフリ

一の観点からも使いづらい。お風呂も使われていない。屋根も錆びている。一度見ていただいて、少しずつでも改修していただき、利用しやすくしてほしい。
→いろいろと状況を聞かせていただいたので、確認のうえ老朽化部分を整理し、高齢者が利用しやすくなるにはどうしたらよいか検討させていただく。

○知的障がいのある娘が郡上市にある施設へ通っている。その施設は莊川の近くまで迎えに来てくれるが、莊川地域内は送迎サービスがないので、ぜひ検討してほしい。

《一之宮地域》

日時：令和5年7月13日（木）19：30～20：30

場所：一之宮支所

参加者：20名

○不登校の娘がいる。適応指導教室にも行けず、居場所がない。学校に行けない子の居場所づくりを計画に入れてほしい。義務教育修了後は社会から孤立してしまうのではと心配しているため、サポートについて計画に入れてほしい。

→子どもの状況によってどういった居場所が必要かは変わってくる。しっかりと声を聴かせていただき、計画に反映させたい。以前は、子どもが学校に適応すべきと言われてきたが、学校が多様性に対応すべきと言われるようになってきた。不登校特例校による対応や居場所づくり、子どもを支える家族や各種団体への支援も大切と考えている。

○軽度難聴の息子がおり、補聴器購入などで支援があったことに感謝している。息子に落ち着きがなく、発達検査を受けさせるため、6月中旬に子育て支援課へ連絡したら、予約がとれたのが9月だった。なるべく早く検査を受けたかったので日赤にも連絡したところ、日赤の予約が決まる前に市から連絡があり、市の予約はキャンセルすると言われた。二重に予約をしようとした私も悪いが、切り捨てられた感じがした。なるべく早く発達検査ができるような体制を整えてほしい。

→発達検査は、外部から心理士を呼んで対応しており、検査だけではなく、学校での様子や保護者の思い、子どもの状況など、様々な情報を集め、細かく分析している。ひと月に対応できる件数が限られてくることから、時間がかかることに理解いただきたい。検査できる体制を強化できるように考えていく。

《久々野地域》

日時：令和5年7月5日（水）19：30～20：50

場所：虹流館くぐの

参加者：56名

○母子、父子、寡婦、生活保護などに関する市の計画があれば教えてほしい。

→高山市地域福祉計画に母子、寡婦などに対する支援を掲載している。

○私の娘は障がい者だが、高山南地域に障がい者向け施設がない。通所にあたり30分圏内であれば送迎できると言われるところが多い。久々野地域に1つ障がい者向け施設があると助かる。

○若い夫婦は経済的に苦しい。核家族、夫が不在、子どもが病気の時、無料で病院へ送迎ができると、とても助かるのではないかと感じた。

○虹流館くぐのに「なかよしランド（つどいの広場）」を作っていただき、社会福祉協議会が様々

な行事を実施してくれるのでありがたい。

○子ども、父母、祖父母と一緒に過ごせる場所（公園）があるとよい。安全な遊具があって、ボランティアの人が見守り、家族みんなで遊べる場所が市内に1か所でもあると良いと思う。子育てしやすいまちづくりをめざしてほしい。

→遊び場について、よいものを整備できるよう検討していく。

○診療所建設の関係で、久々野多目的センター南側にある子どもの遊び場がなくなるので、代替りのものをお願いしたい。

→今年度から診療所の建設が始まるため、芝生ひろばがなくなる。久々野の地域振興策の検討会議などで意見をいただきながら検討していきたい。

《朝日地域》

日時：令和5年7月27日（木）13：30～15：20

場所：燦燦朝日館

参加者：18名

○以前、子育て支援課へ行って公園の遊具整備に対する助成の資料をもらった。JISマークの付いている新しい遊具よりも、木の洞窟のような木の遊具を作りたい。なかなか忙しく手が回らないが、10月頃までには実現したい。

→今年度、市でお断りさせていただいた遊具に対する助成としては、補助金申請者自ら発注して、安全性などの確認が行えない木製遊具を自作する内容があった。市からまちづくり協議会に対する交付金の額には、遊具整備に対する助成制度分も含まれて算定しているため、活用することも一つの方法と思う。禁止事項を極力なくした遊び場（プレーパーク）を先日見学してきた。一例ではあるが、このような遊び場が地域で必要ということであれば、ご相談いただきたい。

○幼保一元化の施策をすすめてほしい。下の子は家で育てたい、上の子は保育園に預けたいと考えても、家庭で保育に欠ける子どもを園で預かるという今の基準では認められない。上の子が保育園なら下の子も保育園に預けることになる。国で決められているので、市では回答できないと思うが、子どもたちが育ちやすい環境、親が子どもを育てやすく、子どもが社会性を学べる環境が必要だと思う。

《高根地域》

日時：令和5年7月11日（火）16：00～17：00

場所：高根支所

参加者：10名

○子どもの数は減ってきている。専業主婦はほとんどおらず、みなさん働いていて大変そうで、賃金も上がってない。高山市は子どもが少ないので、給食費くらいは無料にしてもらいたい。

→給食費は教育委員会の所管になるため、伝えさせてもらう。

○障がい者福祉サービスを利用させてもらっている。今、子どもが16歳だが、障がい児サービスは18歳までのため、18歳になるとどのように切り替わるのか。

→放課後等デイサービスなどは、お子さんが18歳に到達すると原則利用できなくなるが、その子が学校を卒業するまでは利用できるという特例がある。基本的には障がい者のサービスへ移行することになるが、障がい児にしかないサービスを利用している場合は特例がある。事前にお知らせさ

せていただくので、相談いただきたい。

○国で決まったことではあるが、児童手当は所得制限を設けたほうが良いのではないか。所得制限によって、余ったお金を本当に貧しい人たちに回すことができる。

→児童手当はもともと所得制限があったが、今回の改正で撤廃する方針が出ている。国のほうで方針を出すので、それに従うかたちになる。

○これから家が欲しい若い世代が、空き家を購入する場合の助成金はあるか。

→高山市へ移住した人が、空き家を購入したりリフォームする費用に対する補助金がある。

《国府地域》

日時：令和5年7月6日（木） 10：30～11：40

場所：こくふ交流センター

参加者：30名

○障がい児の父親だが、子どもが特別支援学校を卒業後、働ける場所があるのか心配している。

○現状でも介護人材不足は深刻である。1年に1回、出前講座という形で中学校へ行き、介護の仕事の魅力を伝えている。昨年、文化会館で開催する介護フェアについて、中学校全校にチラシを配付したが、中学生の参加はなかった。若い人たちに介護に興味を持ってもらえるよう、教育の現場でもぜひご協力いただきたい。

○前はデイサービスで30人ほど受け入れていたが、スタッフ不足で10人ほどしか受け入れられない、土曜日にも受け入れられないという話を聞いた。いずれは外国の人材を受け入れなければならない。各事業所で考えることかもしれないが、市でも考えていただきたい。

《上宝・奥飛騨温泉郷地域》

日時：令和5年7月21日（金） 19：00～20：30

場所：上宝支所

参加者：9名

○地域で子どもが少なくなっており、保育園で何かしようとしても、人数が少なく、できないことがある。何が必要なのかは具体的には思い浮かばないが、遊び場を作って子どもを増やそうといった次元ではなく、考え方を根本的に変えなければならないと思う。

→地域の置かれた現状はとても苦しいと感じている。子育ては、手を広げれば取り組めることはたくさんあり、学校教育、保健、移住、仕事、暮らしなど、すべてが繋がっている。魅力ある地域づくりをすることで、住みたいと思う人が増える。どのような地域にしていきたいのか、地域の方と一緒に考えていきたい。

○結婚していない人が多い。以前、出会いの場として若い男女の集いを企画してもらったことがある。若い人に結婚したらこうなるというイメージを持ってもらえるようなことをすれば、少しは良くなるのではないか。

→若い人のなかには、子どもを持つことが自身にマイナスになると思う人もいるようである。コロナ禍で社会的な活動が停滞し、結婚も少なくなり、婚活パーティーといったこともできなかった。魅力を感じて地域に来てもらい、子育てしたいと思ってもらえるような取組みを、地域の方と一緒に考えていきたい。

○本郷小学校、北稜中学校の設備はとても良くなったが、子どもたちの教育は国の基準どおりに行われている。例えば、北稜中学校では英語力が飛躍的に向上するなど、他と差別化が図られるようなことができると思う。

→教育委員会の所管になるが、特色ある学校づくりをしたいという地域の思いをまとめ、検討していくことが大事だと思う。

○国の異次元の少子化対策は、結局はお金を出すことしかできないと思うので、他に何ができるか考えることが大切である。

→これまで子育てには注目されてこなかったが、そこに光が当たるようになり、変化の兆しが出てきたと感じている。市においては、国の政策を前提として、地域の特色に応じた取り組みを考えていきたい。

○ある人が他所で子どもに道を尋ねたら、不審者と思われたらしい。あいさつ運動と言われるが、なんでも声をかければ良いわけではない。「地域で子育て」と言われるが、具体的に何をすれば良いか見えるようにしてもらいたい。

→地域で子育てを支えることは非常に重要と捉えている。例えば都会から来たお母さんが、慣れない土地で孤独な子育てになることは良くないと考えており、地域としても子育て家庭を支えますよというメッセージを感じてもらえれば、どんなことでも良いと思う。

○高齢者福祉や障がい者福祉について、将来支えてくれる人は今の中高生になるため、子どもの教育の中にもそれらがあって良いと思う。結婚が大切と伝えることも教育だと思う。

以上